

専門を抛りどころとせよ

広島大学長 田中隆莊

このたび、平成2年度卒業生を送るにあたり、諸君に学士、専攻科修了及び修士を授与できることは、広島大学にとって、最も大きな慶びである。

本学で諸君が、学問を学び、その本質に触れ、学問を身につけたことを、心から祝います。いま諸君は、本学において体験し、経験した諸々のことを思い出し、新しい門出にあたって、決意を固めていることと思う。諸君のこの門出にあたって、一言、所懐を述べて、^{はなは} 餞としたい。

人間の社会が進歩し、発展してくると、人々は文化や生き方に関心を強め、さらに、世界に対して、視野を広げる時代を迎えた。価値観が多様化し、情報が世界のどこでも、臨場感化する時代にあつて、人間の英知と覚悟が一段と厳しく問われる時代がきたのである。

この時代にあつて、諸君はいよいよ実社会に出る。諸君の前途は必ずしも平坦であるとは思わない。しかしそのどんな場合でも、諸君が本学で学んだ学問のことを思い出されたい。狭い専門ではあつても、諸君はそれぞれの専門の本当のことを知り、本当のことを知る方法と能力を習得した。また、本当のことの大切さを学んだ。さらに、その本当のこの歴史と体系化によって、学問が成り立っていることをよく理解した。諸君が、自分のこの専門を抛りどころとし、真剣に、英知と決意を示すとき、表現や行動の巧拙を問わず、諸君は正当に評価される。ロマンあるフレッシュマンとして、専門の自信に根ざして、諸君をめぐる人々の信頼にこたえることを望んでやまない。

いま、世界に目を広げずに済まされない。科学と技術の急激な進歩によって、人間の文化も文明も、国境を越えて交錯し合い、世界の枠組みが弛み、地球として、人間は自分だけでなく、すべての生物とともに住み、ともに生きることを、換言すれば地球に共生することを、真剣に模索せねばならない時代がきている。この地球共生時代にあつて、人間は生き方の転換、すなわち中心となる価値観と、また、絶対的価値観があればそれとともに、多様に価値観を考える時代がきているといえよう。かつて、地動説を支持したガリレイ、G. (1564-1642) が、宗教裁判にかけられて、自説を撤回して死をまぬがれたとき、地球自転という自然科学的には本当のことを、客観として位置づける覚悟をした(ヤスパース、K. 1883-1969)、そのことを思い出すのである。地球共生時代にあつて、価値観を主体と客観として柔軟に考えることを思うのである。

世界に目を広げるとき、諸君が専門を抛りどころとし、深く世界のことを考える生き方であることを期待する。

広島大学は、諸君とともに前進し、進歩する。諸君は、世界のどこにあつても、何ごとにつけて母校を思い、活躍することを祈っている。また、いつでも母校を訪れてくれることを願っている。

最後に、諸君をここまで支えて下さった家族をはじめ、関係者のすべての方々に、諸君とともに、改めて深く敬意と感謝の気持を表わし、告辞とする。(平成3年3月25日)